

2021年度12月期 第3四半期決算説明会  
電話会議における質疑応答（2021年11月15日開催）

1. 業績内容及び見通しに関して

質 問	回 答
第3四半期の売上高が前年同期比で12%落ち込んでおり、経常利益率は14.8%から11.1%に減少した理由は何か？	前年は感染症関連製品の大口受注が有り、売上が増加し利益率の高い標準的製品の売上比率が高かったことに対し、今期は感染症関連製品売上が低下したことが主要因です。
11月10日に発表された通期計画に対し、第4四半期の業績予想が第3四半期より減少している理由は何か？	最新の通期計画では、第3四半期累計では売上の進捗率は80.6%、営業利益の進捗率は93.7%となっております。その理由は、今後、特に12月における感染症関連製品の受注につきましては、殆どが短納期発注の傾向であり予想が困難であることにより、売上高の見込みを抑えております。 また年末までに、各工場等の修繕及び備品の購入等により販売費及び一般管理費の増額を見込んでいるため、第4四半期の営業利益率は約4.4%と算定しております。
2022年12月期の第1四半期から上期にかけての、受注・売上予想はどれほどか？	現状の受注残より、上期の売上予想は60億円から80億円の間になると予想しています。 電子・半導体分野は活況が継続しており期待を持っていますが、部品・材料の調達リスクがあります。 バイオ分野は新型コロナウイルス感染症の各種対策の継続により、製薬及び医療分野の設備投資は継続すると予想しています。2022年3月末を期限とした感染症関連の補助金については不明確であること、現時点では引き合いはありますが受注には至っておらず、織込みを控えています。 さらに経済活動が活性化してくると、自動車関連、食品・化粧品分野への売上も見込めますので、市場状況などを見極めながら来年度計画を策定してまいります。

## 2. 受注、市場環境について

質 問	回 答
原材料価格の高騰が話題となっているが、エアータックの状況はどうか。	原材料価格及び部品価格の高騰は多岐にわたっており、その上昇率も企業努力のみでは吸収しきれない程度となっていたことから、10月より一部の標準製品の値上げを実施しました。今後新製品への切り替えを通じ、段階的に価格転嫁、収益改善を図ってまいります。
半導体関連が堅調とのことだが、TSMCの日本進出は具体的にどのような影響があるのか？	直接的に影響するクリーンルーム用設備に関する建設計画は、まだ発表されておりませんので今後の動向を注視しております。また間接的な影響としては、半導体製造装置メーカーから必要とされるクリーンエア機器の発注が想定されます。どちらとも受注に結び付けるよう営業してまいります。

※ 以上の内容は、電話会議開催日（2021年11月15日）時点の情報に基づく内容です。

以上